

いしずえ写真投稿コーナー

このコーナーでは読者の方からお寄せいただいたデジカメ写真を掲載します。
カメラ好きの方、写真を撮るのが趣味の方、ふるってご参加ください！

第2回お題

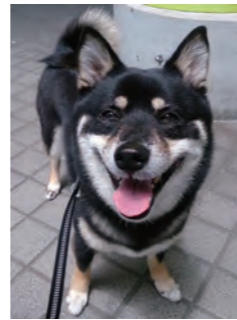
「ペット」



兵庫県在住 安藤 泰政さん 62歳



埼玉県在住 松山 和夫さん 71歳



東京都在住 直子さん 52歳

ご応募いただく際のご注意

※ご応募いただいた作品すべては掲載できませんので予めご了承ください。
※投稿いただいた写真の著作権はご本人に帰属しますが、使用権はいしずえ編集部に帰属し、印刷物、印刷物、宣伝広告、インターネットなどへ無償で使用させていただきます。また使用にあたっては加工する場合があります。
投稿者と被写体となる第三者との間でトラブルが発生した場合には、当事者同士の責任において解決するものとし、(一社)日本石材産業協会ならびにいしずえ編集部はその責任を負いません。
※投稿者は下記注意事項への同意が必要です。応募いただいた方は、応募注意事項に同意いただいたものとします。

- ◆以下に該当する作品は選定および掲載から除外します。
 - ・個人情報を入力したもの、または特定できるもの。
 - ・故意・過失を問わず法律、公序良俗に反するもの、及び恐れのあるもの。
 - ・他人のプライバシーを侵害するもの及び著作権を侵害するもの。
 - ・その他、編集部の判断で掲載にふさわしくないと判断する作品。

次号のお題 「風景」

【応募締切】2018年2月28日(水)
【応募方法】編集部宛に必ず「メール」でご応募ください。※封書では受け付けません。
【応募先】件名にお題「風景」、写真を添付いただき本文にお住まい(都道府県)・ニックネーム・年齢(または年代)をご記載のうえ prism@kinmei.co.jp 宛にお送りください。
お気に入りのフォトに選ばれた方には、QUOカード3,000円分を進呈します。

知っておきたい お墓参りの基本 作法

お墓参りのマナーや作法については、さまざまな説があります。
宗教・宗旨・宗派などによってもお墓参りの仕方は異なりますし、地域の風習に影響するところが大きいので、ここでは墓石への影響や現代の墓地事情に合わせたお墓参りの作法について紹介します。

線香の火は口ウソクから

線香に火をつける際はライターから直接着火せず、お灯明(口ウソクの火)から移すのが本来の形です。口ウソク立や灯ろうがあるお墓でしたら、そちらに口ウソクを立てて、その火から線香の火を頂きましょう。お墓によっては口ウソクを立てる形式になっていないものもあります。その場合は、次善の策としてライターより火をつけます。

線香に火をつける時のポイント

なかなかすべての線香に火はつかないものです。火をつける際のポイントとしては、束になっている線香を2つか3つに小分けして、小さな束で火をつけてみてください。炎の形に合わせて束を広げると比較的早く火がつきます。線香着火専用のライターや着火器もあります。雨の日、風が強い日などはそれらを用意された方が良いでしょう。

ここは石材店様が自由に使えるフリースペースです。
写真や季節のあいさつ文、新サービスのPRやキャンペーン情報など、お客様に伝えたい情報をカラーで掲載できます。

原稿につきましては、素材となる写真やテキストをメールで送っていただければ、編集部でレイアウトを代行します。お気軽にお申し付けください。



いしずえ
~ ISHIZUE ~

2017年
Winter

2017年10月31日発行 株式会社〇〇石材店 〒0000-0000 東京都千代田区西神田 0-00-00
制作・発行 錦明印刷株式会社

いしずえ

~ ISHIZUE ~

サンプル誌 2017年冬号



「お墓は幸せのシンボル!」お墓参りコンテスト 2013 優秀賞

〜お墓photoコンテスト〜
「兄、おもちゃ買ってもらえますように。弟、お菓子をたくさん下さい。」

内孫の翼(つばさ)君と寿人(ひさと)君です。大きいじいちゃん和大きいばあちゃんは2人が生まれる前に逝きました。でも、仏壇横の写真で毎日会っています。「正直な気持ちで先祖様をお願いすると、何でも叶えてもらえるよ」と教えると、チビたちなりに一生懸命、本気で拝んでいました。「何を願ったの...?」お兄ちゃんは「おもちゃをいっぱい買ってもらえますように...」弟は「お菓子をたくさん下さい...」だそうです。

お墓にまつわるエピソード お墓物語

「お墓参りの不思議」

伊東 徳久さん 男性48歳(神奈川県)

「こにしよう、決定だ!」
思わず僕は声に出して言ってしまった。今まで住んでいた社宅の閉鎖が決まってから家を建てようと思いついて土地を探しに行き何軒目かで思わず言ってしまったのだ。なんとここからは去年亡くなった長男のおおぶーのお寺が見えるではないか。

残念ながら僕達の最初の子どもは先天性の心臓病で生まれてすぐに天に召されてしまった。最初は悲しくてたまらなく月命日には必ずお墓参りに行っていた。社宅からお墓のあるお寺は結構近かったので毎月行けたのだ。そのお寺が今日不動産屋さんが連れてきてくれた土地から良く見えるのだ。妻もびっくり

して眼をまん丸にしている。ちょっとというよりだいたい予算オーバーだったが無理してそこを買ってしまった。

それから何年か経ち二人の子どもに恵まれた。女の子と男の子だ。それでも月命日には必ず皆でお墓参りに行く。ある時は飛行機のおもちゃ、ある時はお菓子と子どもたちが色々持っていく物を選んだりしてお墓参りがなんだか楽しいことになってきている。思い出せば僕が子どもの頃両親とお墓参りに行くと帰りは必ずお寿司を食べに行っていた。子供心に「来週はお墓参りだよ」と聞くとウキウキしていた記憶がある。

昨年父親が亡くなった。長男が亡くなった

時に一番に駆けつけてきてくれた親父だ。その父親の納骨の時に小さな骨壺が見えた。その横に父の骨壺をそっと置きながら僕は小さな骨壺に「ジジジがきたから沢山遊んでもらいな」と声をかけ今度は父親の骨壺に「なぶーをよろしくね」と声をかけてそっとふたをした。

お墓ってなんだか不思議だ。身内が亡くなってお葬式の後に納骨する時はもくすぐく悲しくて寂しいのに、そのあとにお墓参りに行くと生前の楽しかった思い出ばかりが蘇ってきてなんだかまだ一緒にいるような楽しい気持ちになっていく。ジジジは競馬が好きだったから今度は馬の置き物でも持って行ってあげようかな。



教えて！ 和尚さん！

とある街に住む花子ちゃんは、小学2年生。
今日も仲良しな徳田和尚の所へやってきて、
何やら教わっている様子…

がっしょう
合掌
について



※お墓や仏事に関する事柄は、地域性や宗教、宗旨・宗派などにより異なります。

「花子ちゃん、いらっしゃい。お祖母ちゃんの付き添い、偉いね」

「ううん、付き添いじゃなくて、私もお祖父ちゃんと会いたかったの。でも、お祖母ちゃん、お墓参りが長いから、ちょっと退屈しちゃった」

「そうか。でもな、お祖母ちゃんは、本当にお墓参りが大好きなんだから、あんまり『早く帰ろう』なんて、言っちゃだめだよ」

「は～い。それでね、和尚さん、さっきお祖母ちゃんに、何でお墓では手を合わせるの、って聞いたの。そしたら、和尚さんに聞いてこいって」



「そうか、そうか。手を合わせるのはな、お墓にいるお祖父ちゃんやご先祖さまに対する愛情と尊敬の気持ちを現しているんだ。それに花子ちゃん、お墓で手を合わせると、お祖父ちゃんの顔が思い浮かばないかい？ 手を合わせることで、むこうにいる人に、花子ちゃんの思いが届きやすくなるんだよ」

「そっかあ」

「もともとは、仏教が生まれたインドの習慣なんだよ。インドでは、右手が仏さまの象徴で、清らかなものをあらわしているんだよ。でね、左手は

ね、私たち人間のことをあらわしているんだ。つまり、手を合わせるといことは、仏さまと私たちがひとつになるということなんだ」

「う～ん？」

「難しいかな。仏さまとひとつになるということは、仏さまに、すべてをお任せします、という意味なんだよ」

「へ～」

「それでだんだんと、仏さまだけじゃなくて、私たちがありがたいと思うものに対して手をあわせるようになっていくんだよ。お祖父ちゃんは、ありがたい存在だろう。だからお墓に来ると、手をあわせるんだよ」

「うん、おじいちゃん、ありがたいよ」

「それから、花子ちゃん。ご飯を食べる時に、手をあわせるだろう？」

「うん、いただきますって」

「それはね、ご飯をつくってくれたお母さんや農家さんに『ありがとう』って気持ちを伝えるためなんだよ。そしてもっと大切なのは、食べ物みんな、元は生き物だってことなんだ。お肉は、牛さんや豚さんの身体だし、お魚もそうだろう。野菜だって、みんな生き物なんだ。そうした生き物の身体をいただいているってことへの感謝もしなければならぬんだ。だからご飯を食べる時に、手をあわせるんだよ」

「そっかあ」

「これからも、手を合わせる時には、ありがとうって気持ちを忘れないようにね」

「うん。和尚さん、ありがとう」

「花子ちゃん、また来なさいね」



123456

お楽しみ抽選番号

毎号抽選で5名様に2,000円分のQUOカードをプレゼント！
当選番号は次号の「いしずえ」誌面にて発表します。当選番号が印字された「いしずえ」をお持ちの方は、いしずえ配布元の石材店までご連絡ください。



— いしずえ秋号 当選番号 —

171178
171699
172669
172787
173064

昭和の流行歌

～歌は世につれ～

『黒ネコのタンゴ』

皆川おさむ

作詞：見尾田みずほ
作曲：マリオ・パガーノ

昭和四十四年



ラララララ ラ

キミはかわいい 僕の黒ネコ
赤いリボンがよく似合うよ
だけどときどき 爪を出して
僕の心をなやませる

黒ネコのタンゴ タンゴ タンゴ
僕の恋人は黒いネコ
黒ネコのタンゴ タンゴ タンゴ
ネコの目のように気まぐれよ
ラララララ ラ (ニャーオ)

すてきな君が 街を歩けば
わるいドラネコ 声をかける
おいしいえさに いかれちゃって
あとで泣いても 知らないよ

黒ネコのタンゴ タンゴ タンゴ
ぼくの恋人は黒いネコ
黒ネコのタンゴ タンゴ タンゴ
ネコの目のように気まぐれよ
ラララララ ラ (ニャーオ)

夜のあかりが みんな消えても
君の瞳は 銀の星よ
キラキラ光る 黒ネコの目
夜はいつも 君のものさ

黒ネコのタンゴ タンゴ タンゴ
ぼくの恋人は黒いネコ
黒ネコのタンゴ タンゴ タンゴ
ネコの目のように気まぐれよ
ラララララ ラ

キラキラ光る 黒ネコの目
夜はいつも 君のものさ

黒ネコのタンゴ タンゴ タンゴ
ぼくの恋人は黒いネコ
だけどあんまり いたずらすると
あじの干物は (ニャーオ) おあずけだよ
ラララララ ラ ニャーオ

日本音楽著作権協会 (出) 許諾第1712375-071

愛くるしい子どもが歌う『黒ネコのタンゴ』。昭和四十四年にテレビやラジオを席卷したこの童謡を憶えている人は多いでしょう。

この曲は、実はイタリアの童謡で、原題を直訳すると「黒いネコが欲しかった」というタイトルです。

日本では、当時六歳の子役・皆川おさむが歌い、昭和四十五年のシングルセールス第一位となりました。ラジオ番組「オールナイトニッポン」でかかったのが、ヒットのきっかけだったと言います。子ども達に愛された歌ですが、販売当時は「大人のための子どもの歌」という宣伝文句で売り出していたようです。

そして、この歌のヒットがきっかけで、当時、子供歌手ブームも生まれました。近年でも何年に一度かに、子供の歌う曲がヒットしていますが、この「黒ネコのタンゴ」がはじまりだったのかもしれない。

ちなみに皆川が歌った日本語版で、恋人のように大好きな黒いネコとのやりとりを歌った歌詞ですが、イタリア語の歌詞はかなり異なった内容でした。「自分は本物のワニを飼っていて、それをあげるから、黒ネコを頂戴といったのに、君が暮れたのは白いネコ。そんな嘘つきとはもう遊ばない」という歌詞のようです。

歌は世につれと言いますが、流行歌には、その時代の世情があらわれています。そして人は、流行歌に、自分の思いを託します。私たちは、流行歌を通して、当時の人たちの心に触れることができるのです。

仏さまのからだ

～仏の三十二相～

仏さまの体は、私たちの体とは異なる特徴があることをご存じですか？ 仏さまの体には三十二の特徴があり、仏の三十二相と言われています。今度、仏像に手をあわせる時には、ちょっと気にして、仏さまの姿を見つめてみてください。

今号のテーマ

仏さまは手が長い！

仏さまの手は、私たち人間に比べてかなり長さがあります。気をつけの姿勢をとると、私たちの手のひらは、だいたい太ももの上の方にあります。ところが、仏さまの手は、膝に触れるほど長いのです。これは、仏さまの衰れみの思いが大きいことを示していることを象徴しているのです。

膝に触れるほど長い手



「奈良法華寺の
国宝十一面観音像」

